



# 向陵広場

発行号 第129号

発行日 令和5年11月16日(木)

発行元 向陵編集校友会

責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

## 「手彫り職人が作る逸品」 田中よし子 県商9回卒(昭和35年3月)



### 道 程

店舗名 大曾堂印舗 (たいそどういんぽ)  
 住 所 豊橋市八町通 3-120  
 Ⅱ 0532-54-8787  
 創業年 明治43年  
 代表者 四代目店主 田中よし子

### 手彫り印鑑と共に

四代目店主である田中よし子さんは、幼稚園ぐらいから遊びで印彫りをやっていた。中学校に行く頃には、自分の彫った印鑑が商品として店に並んだ。鏡文字をすらすらと書き、画数の多い横画の1ミリを切るような隙間も、ゴム刀というゴム専用の切り出しで、きれいに一発で削り出す。豊橋商業高校卒業するとき、家業を継ぐ前に外で仕事をしておくべきと考え、福田産業に就職した。高校時代とこの会社勤め時代には、ずっと祖母たよが店を守っていた。

しかし昭和の終身雇用の時代、女子は腰掛けと言われ、在職期間は寿退社の結婚まで3~4年程度。だから、3年間のつもりで事務職に就いたが、大変に重宝され5年間勤めた。

そして、よし子が家に帰って来るなり、翌日には納品という仕事を叔父の春雄が持ってきた。退職した昨日の今日で、手慣らしもせず印を彫った。失敗したものもあったのに、春雄はそれらを大曾堂の商品として納めた。とはいえ、失敗した商品については、春雄があらかじめ作っておいた自分のものと取り替えて納めたのである。

よし子の才能を信じ、実家の大曾堂を守っていこうとする叔父春雄の思いが、よし子を元気づけた。その田中印舗は、今でも通りを挟んで向かい側に店を開いている。

よし子の結婚相手は、周囲の友人たちが見つけてきた。自転車やオートバイを扱っていたバイク屋が家業の息子、安通である。大学も出てラテン音楽が好きで、周囲の友人たちが「いいやつだ、何でもできるから」と言って勧められたのである。それから安通はこつこつと彫刻刀で印鑑彫りを始め、技術を身につけた。安通は五代目として本柘や象牙で認印や銀行印、実印を彫り、さらに、よし子もゴム印類を手彫りする。今では、六代目となる長男芳信とともに、3人で店を切り盛りしている。

よし子の技術の高さは多くの人に認められ、2020年に最後の印鑑手彫り職人として、豊橋市の愛市憲章実践者表彰を受賞した。個人と会社を守る大切な印章は、今日も作られ続けている。